幼児の教育　第117巻　第2号　平成30年4月1日発行　ISSN0289-0836

子ども学の源流を次世代につなぐ

幼児の教育

[特集] 保育の「根本考察」にチャレンジ！
保育者は変わるけど変わらない？

[実践] こども園をつくる
保育を支える連携と同僚性

[探究] 投稿論文（研究紹介）
中国の4幼児園を訪問して

2018
春

since 1901

第117巻　第2号
お茶の水女子大学
『幼児の教育』編集委員会

新しい春。ドキドキする。
「よく来たね。一緒だよ」
木や風がささやく。

子どもの情景

子ども学の源流を次世代につなぐ

幼児の教育 春2018

第117巻　第2号

写真
子どもの情景 1

目次 まど
幼稚の園 2

特集
保育の「根本考察」にチャレンジ！5
保育者は変わるけど変わらない？ 4
《座談会 2018》
20代の保育者だった頃を振り返る 5
《アーカイブズ》
座談会
「新年を迎えて したいこと いいたいこと
―われら20代―」
―『幼児の教育』第七十三巻第一号
（一九七四年）から― 18

告知
『幼児の教育』ここが新しくなります。 22

実践
私の保育ノート
「なりたい自分になりたい」 佐々木麻美 24
心が開かれるとき―あるクラスでの出会いから
西 隆太朗 28
こども園をつくる
―文京区立お茶の水女子大学こども園の
記録― Vol.8
保育を支える連携と同僚性
～シフト勤務制を生かす工夫から～
森永路子 32

連載
倉橋惣三との対話 ⑤
「森の幼稚園」という理想（その3）
浜口順子 38

目次

表紙の図柄は、お茶の水女子大学附属幼稚園内にある
ステンドグラスの模様をデザイン化したものです。

視点
幼児の自然体験に寄り添って　余語昌子　42
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂（定）とこれからの保育　松島のり子　46

文化
園文化をデザインする⑤
春を見つける
～いつものお庭や散歩道で　中村紘子　50

探究
中国（蘭州、西寧、北京）の4幼児園を訪問して
―ユニバーサルな保育はあるのか―
浜口順子・小玉亮子・盧中潔　62

子ども学のひろば
イベント・メディア情報・
読者投稿・編集後記　他　63

まど　幼稚の園

この号から本誌にいくつかの変化があり、巻末に横書きの論文コーナーを設けたこともその一つだ。投稿規定（本誌23ページに掲載）をご参照の上、ふるって投稿していただきたい。

今回はまだ募集前のため、中国訪問記を掲載した。現在の中国では、三～五歳の子どものための施設を「幼児園」という。幼稚園とは「じ」と「ち」の一文字の違いではあるが、されどその一文字なのである。日本の幼稚園は発足一四二年目を迎え、倉橋惣三らがフレーベル会を「日本幼稚園協会」と改称してからちょうど百年。よう「ち」えんの響きは日本の保育史上、意味深い。

幼稚園よりも一足先、一八七五年、京都府柳池小学校に付設されたのは「幼稚遊嬉場」だった。翌年、桑田親五が訳出したロンジ夫妻著の「幼稚園」はオサナゴノソノと読む。当時、幼児のことを「幼稚」と言ったのである。現代の「幼稚な」という語には侮蔑的な意味合いもあるが、幼稚園とは本来「幼児たちの園」であり、フレーベルが感動を込めて命名した教育施設「キンダーガルテン」の直訳なのだ。今号から本誌の表紙に「日本幼稚園協会」と記されないが、幼稚園に込められた先人の思いは謙虚に継承していきたい。（浜口）

編集後記

私たちの職場では今、保育を語りあうことや、語りあうように記録を書きあうことを大切にしている。カチッとした文章を作成しなければならない際にも、“語り合い”のニュアンスが消えないようにしたいと考えている。また、日々保育者たちが紡ぎ出す言葉の中には、保育の本質にかかわるようなこともいろいろ出てくる。

「保育の現場では、“私”に代われる人がたくさんいる、ということがありがたい。一人の人の考え/価値観/時間の流れ（だけでやらなければならないもの）ではないし、疲れてしまったときや自分にできないことは、できる人に託すこともできる」「『ここは大丈夫・この人は大丈夫、自分のことをわかってくれる。わかってはくれていないけれど、わかろうとしてくれている。どんな自分を出しても大丈夫』という『ありのまま（＝非・変化）』を認められる実感が、『“大丈夫”が増えて自ら次の時へと移っていく経験（＝変化）』につながっていく」等々。

変わりゆく時代に、「育ち」を「保つ」という保育の字義通りの役割を変えてはならないだろう。そのために、「育ち」の基本となる、子ども一人ひとりの安心感、“大丈夫”が増えていく経験の担保が必須ではないか。私たちになし得ることとして、“語りあうように記録を書きあう”ようなささやかな試みではあるけれど、“語りあえる日常を手放さない”ということが意外と大事であるように思う。（KT）

次号予告　幼児の教育 夏号 2018年7月刊行予定

新企画も好評！　充実した内容でお届けします。

◇ 保育の「根本考察」にチャレンジ！　6
　幼児教育の要領・指針が変わるとき

◇ タイの子どもたち支援団体「マレットファン」の活動報告　松尾久美氏

◇「ナーサリーこぼれ話」　お茶の水女子大学附属いずみナーサリー

※タイトル・内容が変更になる場合もあります。

幼児の教育 春号 第117巻 第2号

平成30年4月1日発行
編集発行人／浜口順子
編集担当／田中恭子
発行所／お茶の水女子大学
『幼児の教育』編集委員会
〒112−8610
東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学
浜口順子研究室内
youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp

発売所／株式会社フレーベル館
電話：03-5395-6604（編集）
振替／00190-2-19640
印刷所／図書印刷株式会社
定価／本体880円+税

©お茶の水女子大学『幼児の教育』編集委員会
2018 Printed in Japan　無断転載禁止
落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

編集委員／上坂元絵里
菊地知子
松島のり子
宮里暁美
お茶大３園合同研究会
（附属幼稚園、
いずみナーサリー、
文京区立お茶大こども園）
編集協力／フレーベル館

● ご購入のお問い合わせは、フレーベル館までお願いします。03-5395-6613（営業）●

最新刊

保育ナビブックⅩ 第7弾！

※保育ナビ（月刊保育誌）から生まれた新シリーズ。
保育現場で気になるテーマをしっかり掘り下げます。

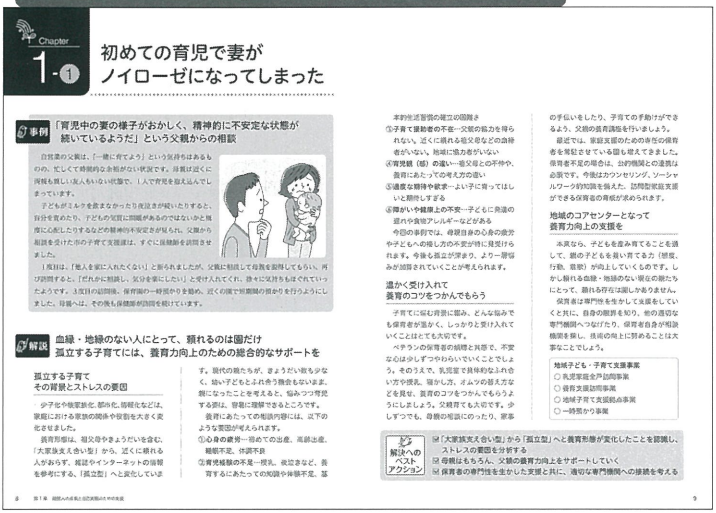
親育ち支援のための 保護者対応

松田順子・著

（東九州短期大学特任教授）

園が抱える保護者トラブルの31事例と共に、親育ち支援の視点で取り組む保護者への具体的な対応方法を紹介しています。

31のリアルな事例と解決法を掲載！



Chapter 1-1

初めての育児で妻がノイローゼになってしまった

事例 「育児中の妻の様子がおかしく、精神的に不安定な状態が続いているようだ」という父親からの相談

自営業の父親は、「一緒に育てよう」という気持ちはあるものの、忙しくて時間的な余裕がない状況です。時間は近くに両親も貧しい友人もいない状態で、1人で育児を抱え込んでしまっています。

子どもがミルクを飲まなかったり夜泣きが続いたりすると、自分を責めたり、子どもの発育に問題があるのではないかと強度に心配したりするなどの精神的不安定さが見られた。父親から相談を受けた市の子育て支援課は、すぐに保健師を訪問させました。

1度目は、「他人を家に入れたくない」と断られましたが、父親に粘り強く母親を説得してもらい、再び訪問すると、「どれかに相談し、安心を家にしたい」と受け入れてくれ、徐々に父親ともはなしてくれていったようです。3度目の訪問時、母子健康センター経由から数回、近くの保育所訪問の依かりを行うようにしました。母親へは、その後も保健師が訪問を続けています。

解説 血縁・地縁のない人にとって、頼れるのは園だけ 孤立する子育てには、養育力向上のための総合的なサポートを

孤立する子育て その背景とストレスの要因

少子化や核家族化、都市化、母親化などは、家庭における家族の関係や役割を大きく変化させました。

養育形態は、祖父母やきょうだいを含む、「大家族支え合い型」から、近くに頼れる人がおらず、雑誌やインターネットの情報を参考にする、「孤立型」へと変化していま す。現代の親たちが、まようだい数も少なく、幼い子どもとよれ合う機会もないまま、親になったことを考えると、悩みつつ育児する姿は、容易に理解できるところです。

後育にあたっての相談内容には、以下のような要因が考えられます。

①心身の疲労―将来での出産、高齢出産、睡眠不足、体調不良

②育児経験の不足―授乳、夜泣きなど、養育するにあたっての知識や体験不足、基本的生活習慣の確立の問題さ

③子育て援助者の不在―父親の協力を得られない、近くに頼れる祖父母などの協力者がいない、地域に協力者がいない

④育児疲（癒）の欠如―祖父母との不仲や、養育にあたっての考え方の違い

⑤過度な精神や欲求―よい子に育ってほしいと期待しすぎる

⑥障がい や健康上の不安―子どもに発達の遅れや金銭アレルギーなどがある

今回の事例では、母親自身の心身の疲労や子どもへの幼い力の不安が特に見受けられます。今後も孤立が深まり、より一層悩みが加算されていくことが考えられます。

温かく受け入れて 養育のコツをつかんでもらう

子育てに悩む背景に潜み、どんな悩みでも保育者が温かく、しっかりと受け入れていくことはとても大切です。

ベテランの保育者の経験と実際で、不安なのは少しずつやわらいでいくことでしょう。そのうえで、乳児室で具体的なよれ合い方や授乳、寝かし方、オムツの替え方などを見せ、養育のコツをつかんでもらうようにしましょう。父親育ても大切です。少しずつでも、母親の相談にのったり、家事の手伝いをしたり、子育ての手助けができるよう、父親の養育講座を行いましょう。

最近では、家庭支援のための専任の保育者を常駐させている園も増えてきました。保育者不足の場合は、台的機関との連携は必須です。今後はカウンセリング、ソーシャルワーク的知識を備えた、訪問型家庭支援ができる保育者の育成が求められます。

地域のコアセンターとなって 養育力向上の支援を

本来なら、子どもを産み育てることを通して、親の子どもを育て育てる力（感度、行動、意欲）が向上していくものです。しかし頼れる血縁・地縁のない現在の親たちにとって、頼れる存在は園しかありません。

保育者は専門性を生かして支援をしていくと共に、自身の限界を知り、他の適切な専門機関へつなげたり、保育者自身が相談機関を探し、技術の向上に努めることは大事なことでしょう。

地域子ども・子育て支援事業
- 乳児家庭全戸訪問事業
- 養育支援訪問事業
- 地域子育て支援拠点事業
- 一時預かり事業

ビジ 解決へのベストアクション
- ※「大家族支え合い型」から「孤立型」へと養育形態が変化したことを認識し、ストレスの要因を分析する
- ※母親はもちろん、父親の養育力向上をサポートしていく
- ※保育者の専門性を生かした支援と共に、適切な専門機関への接続を考える

8 第1章 親個人の成長と自己実現のための支援

9

全80ページ
26×18cm
定価本体1,800円＋税

109-58 ISBN978-4-577-81431-4

コンテンツ

第1章 親個人の成長と自己実現のための支援
第2章 親と子ども、親と保育者、親同士の人間関係における支援
第3章 生活を営む環境や場における支援

キンダーブックのフレーベル館

くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支社・支店・営業所
または本社保育営業部（03）5395-6608にお問い合わせください。

好評発売中

フレーベル館 110 周年企画

倉橋惣三を旅する
小さな太陽

倉橋惣三・言葉 小西貴士・写真
大豆生田啓友・選

今も昔も変わらず子どもたちは「小さな太陽」であり、私たちの「希望」—。『育ての心』他の倉橋惣三の詩情豊かな子ども観を、『保育ナビ』表紙でおなじみの小西貴士氏の写真でイメージ化しています。ゆっくりページをめくりたい1冊です。

全48ページ　26×18cm

定価 本体1,300円＋税 109-67 ISBN978-4-577-81429-1

見よ、子どもらの生活が呟いている。
満開している。
かれら自らに、
どんなに快いことであろう。
どんなに誇ばしいことであろう。
その、子どもらの幸福を、
子ども自らの心に和して祝う心、
それがわれらのまごころである。
「育て」
005
004

子どもの健気な姿や、ユーモア溢れる姿が立ち現れると、ぷっと吹き出してしまい、「ま、いいか」と思えることもあるものです。ちょっと見方を変えてみると、私たちの毎日は、彼らに元気づけられていることに気づかされるのです。

大豆生田啓友
解説より

「小さな太陽」— それは、私たちの希望なのです。

キンダーブックのフレーベル館
くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支社・支店・営業所
または本社保育営業部 (03) 5395-6608にお問い合わせください。

好評発売中

フレーベル館110周年企画

倉橋惣三を旅する
21世紀型保育の探求

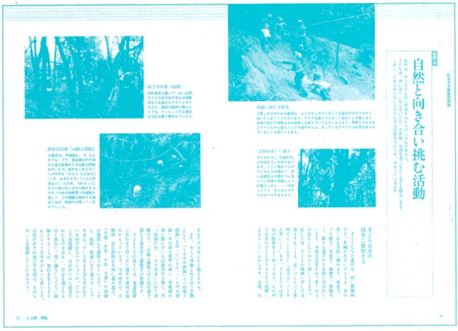
大豆生田啓友・編著

現代の保育実践や対談を通して倉橋の保育論に今一度立ち返り、日本の21世紀型保育を探求する―。新しい時代を切り開く、保育の新と真を見据えた実践集です。月刊保育雑誌『保育ナビ』で連載している大豆生田啓友先生の最新刊。平成30年から施行される保育の3つの法令を実施する際のヒントにもなる1冊です。

全152ページ　26×18cm
定価 本体2,600円＋税
109-66 ISBN978-4-577-81428-4

保育の未来を探るための対談と30の事例

秋田喜代美先生（東京大学大学院）と大豆生田啓友先生（玉川大学）の対談。乳幼児期だけでなく、学校教育全体を含めた世界的な動向と、我が国の保育の新たな方向性について探ります。



倉橋の8つのキーワード「心もち」「生活・遊び」「誘導保育」「自然・環境」「親・地域」「保育者」「小学校との接続」「多様な子ども」から、30の実践事例を紹介しています。

キンダーブックの フレーベル館

くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支社・支店・営業所
または本社保育営業部（03）5395-6608にお問い合わせください。